



会長あいさつ

農学部同窓会会長

林 真 二

今年は梅雨明けが遅く、農作物への影響が心配されるこの頃ですが、同窓会会員の皆さま方には、さまざまな方面でご活躍になっておられることとお慶び申し上げます。また、日頃から、同窓会の活動に対しまして多大なご支援およびご協力をいただいておりますことを、心から厚く御礼申し上げます。

さて、会長に選出されてから3年が経過いたしました。卒業式や卒業祝賀会に参加してみると、毎年、希望をもって社会に旅立とうとしている卒業生の生き生きとした姿を多く見かけます。新しい同窓生の誕生であり、会長として、こうした同窓会員の今後の人生が幸多きものになることを祈ってやみません。

しかし、その一方で、同窓会活動を取り巻く環境は年々厳しさを増しつつあると感じております。特に、若い世代の同窓会に対する帰属意識が弱まりつつあり、今後いかにして若い同窓会員の方々に活動に参加してもらうかを本格的に考えなければならな

い時期に来ております。

同窓会としても、昨年度より新しく広報記録費を予算に計上し、社会で活躍されている同窓会員の皆さまに来学いただき、就職や仕事に関する貴重な体験や知識を披露してもらう体制を整えました。こうした地道な活動を積み重ねることによって、在学時より、学生の皆さんに同窓会の意義を実感してもらい、卒業後に積極的に同窓会活動に参加してもらえるようにしていきたいと考えております。また、今後は若い同窓会員の意見を、これまで以上に積極的に取り入れた運営も必要になってくるであろうと感じております。

なお、最後となりましたが、会員の皆さま方の今後一層のご発展とご健勝を心から祈念申し上げます。また、来年は総会が開催される年でもございます。多くの同窓会員の皆さまが鳥取の地に集まり、旧交を温め合うことができますことを期待しまして、私のあいさつに代えさせていただきます。

主な目次

会長あいさつ	1	講座トピックス	3
農学部長あいさつ	2	支部だより	8
役員会	2	国立大学法人化について...	13

国立大学法人化に向けて

農学部長 本名俊正



今年の夏は低温と長雨が続き、農作物は残念ながら10年ぶりの不作が予想されておりますが、同窓会の諸先輩におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。この4月から農学部長を拝命しております。農学部の発展のために精一杯の努力をしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

7月に国立大学法人法が制定され、いよいよ明年4月から国立大学法人鳥取大学として新しい体制で大学が運営されることになりました。国立大学の法人化は、日本の大学の明治維新とも言われ、我が国の大学の歴史上かつてない大きな改革となります。

学長の強い権限のもとに副学長・理事を中心とした役員会、外部の有識者を半数以上含む経営協議会、教育研究評議会等の組織体制となり、運営方法も大きく変わり、外部評価の結果が運営費交付金にも反映されることから、教育・研究のすべての面で実績を上げ、大学の特色を明確にし、社会から見ても、学生から見ても魅力あるより良い大学となるべく、たゆみない努力が必要となります。

これまでは国立大学ということで、ややもいたしますと現状に甘んじることも多かったと思いますが、

今後は受験人口の急減と大学間の激しい競争の中で、意識を切り替え、教職員・学生が一体となって、時代に対応したより質の高い大学を目指すこととなります。

21世紀は、地球上のすべての生命の共生を目標とする時代と言われております。農学部の果たす役割は、食糧生産を中心としたことから、食の安全、さらに環境問題を含め、飛躍的に拡大しております。鳥取大学農学部といたしましても、鳥取という地域に根ざした農業生産や環境問題はもとより、乾燥地農学をはじめとする国際的・地球的視野に立って、積極的に教育・研究を推進するとともに、豊かな感性と実行力を持った優れた学生を育成し、社会に送り出したいと考えております。今後は積極的な外部資金の導入をすすめ、新しい教育と研究分野の展開を推進し、自然と生物への関わりを通じて、国際的な最高の内容をもつ農学部に飛躍発展することが望まれております。

同窓生諸先輩からのこれまでの心暖かいご支援に心から感謝いたしますとともに、今後ともさらなるご支援ご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

役員会報告

平成15年度の役員会は5月16日（金）午後6時より白兔会館において開催されました。開会にあたり林会長欠席のため山口副会長が挨拶され、続いて来賓として出席いただいた本名俊正農学部長（平成15年4月1日就任）が挨拶されました。その中で農学部の現況として獣医学科の再編問題、来年度に予定されている法人化に向けての農学部としての抱負などについて述べられ、農学部同窓会に対して一層の支援、協力の要請がありました。

議事に入り、平成14、15年度の事業ならびに会計中間報告について審議されました。中間報告の主な

内容は以下の通りです。

事業報告

- (1) 総会の開催：平成14年5月11日、於白兔会館、総会の状況、審議内容については会報第24号に報告済み。
- (2) 会報第24号の発行：平成14年9月20日付、10000部印刷。
- (3) 支部活動等：平成14年度中に開催された支部総会は開催順に兵庫但馬、北海道、熊本県、沖縄県、鳥取因幡、岡山県、香川県、山口県、関東、大阪、島根風紋会、島根県、静岡県、鳥取中部の14支部で、各支部総会には本部より出席して、支部援助金を交付するとともに、同窓会、農学部の現況等

について報告し、同窓会費納入など会の運営、活動への支援、協力方をお願いして来た。

また、援助金交付の対象となる鳥取県開催で還暦以上の年齢のクラス会は7件開催された。

(4) 卒業祝賀会援助：平成14年度の卒業祝賀会の援助を例年通り行い、祝賀会には林会長が祝辞を述べられた。

(5) 慶弔費：平成14年度中に本部に報告があった同窓会員にそれぞれ祝電又は弔電を送達した。慶事については小谷英二、岸本潤、河本義永の3氏が叙勲の栄に浴された。一方、弔事では同窓会員5氏、旧教官の池田茂先生、宮田和夫先生、信州大学に転出された魚住侑司先生と現教官の渡辺正平

先生がご逝去になった。

(6) 平成12年度から発足した終身会費制は平成14年度までの会費納入状況が昭和26年次前卒の29%を最高に卒業年次が新しくなるにつれて低下し、新入学生に対する入学時の徴収率は平成14年は87%に達している。

会計中間報告では収支ともにほぼ順調に推移していることが報告された。

その他、農学部の発展のために今後協力、支援をしていきたい旨の発言があり、続いて行われた懇親会においても農学部長を囲んで種々意見の交換があった。

講座トピックス

生物生産学

まずは教官に関する近況をお伝えいたします。

園芸学の田邊先生が今年還暦を迎えられました。

「え？もうそんなお歳ですか」と思わず口にしてしまうくらい田邊先生はダンディーで素敵です。髪は白くなりましたが…。7月31日のニュースステーションに元作物生産学教授の津野先生が出演されました。「純白の水田」と題して、退官後始められた布マルチに関する仕事の紹介でした。ますますお元気です。また同じく作物生産学の田中朋之先生が9月より1年間アメリカ留学されます。植物遺伝育種学の田中裕之先生も身重の妻を残して8、9月の2ヶ月間、アメリカ出張中です。乾燥地研究センター生理生態分野の杉本先生が5月に神戸大学に転出されました。益々のご活躍を祈念いたします。植物生産分野の遠山先生は来年3月で定年退官されます。

ご紹介できなかった他の先生方もみなさん精力的に研究教育に邁進しておられますので、お近くのお立ち寄りの際は、ご遠慮なく研究室のドアをノックしてください。

さて、この4月より大学院生物生産学講座に菌蕈学分野を新設しました。これは、財団法人日本きのこセンター・菌蕈研究所との連携によるもので、大学院における研究・教育をより一層充実させるため

のもです。

今年の学生の就職状況はますますのようです。しかし、まだ決まっていない学生も数名おります。今後も同窓の方々のお力添えを頂きますようよろしく願いいたします。

(山口武視・A昭58年卒)

応用生命科学

生物化学、微生物工学分野に、それぞれ、一柳剛(いちやなぎ つよし)(31才)、会見忠則(あいみ ただのり)(37才)の二人の新任教官が赴任されましたので、紹介します。まず、一柳氏は、理化学研究所から昨年の9月講師として赴任。専門は、糖鎖工学(糖鎖合成化学)で、これまで糖タンパク質の合成を行われてきています。お酒はあまり飲めませんが、酒の会は好きなようで、現在、秘伝の梅酒を熟成中。球技系のスポーツはかなりできそうです。会見氏は、広島県立大学から昨年10月助教授として赴任。きのこカビの分子遺伝学専門家です。酒とたばこをこよなく愛し、自称スポーツ万能の熱血漢。若い教官のエネルギーにおおいに期待します。

来年度から独立法人化しますが、そのための対応におわれています。この法人化に加えて、学部校舎の改築(予定では17年の4月着工)のプラン作りが進んでおり、教官は例年以上の雑用におわれています。獣医学科の再編成の問題もありますが、これか

ら、研究室、講座等の枠を越えたかたちで、やっと学部再構築が始まります。

さて、最後になりましたが、諸先輩へお願いしたいことがあります。この数年の不況で就職状況が大変厳しい状況にありますが、化学、バイオ、食品等の分野での求人情報、研究開発部門での動向等をお知らせ頂けるようお願い致します。上記の情報に限らず、共同研究、あるいは、学部生、大学院生のインターンシップの可能性についてもお知らせ頂ければと思います。よろしくお願致します。

（山崎良平・C昭49年卒）

生産環境化学

講座主任の中島です。最近のニュースをお伝えします。本年3月31日付で食物栄養学分野の山内益夫先生がご退官になり、その後任として真鍋 久先生が4月1日に着任されました。真鍋先生は愛媛県のご出身で現在53歳。3月31日までは会津大学短期大学部にご在籍でした。また4月1日には土壌学分野の本名俊正教授が農学部長に就任されました。大学の独法化を前に難問山積みですが、お元気で農学部発展のためにご活躍されることをお祈りいたします。5月1日に応用環境微生物学分野の助手に作野えみ先生が着任されました。作野先生は島根県出身で現在27歳。4月30日までは鳥取大学連合農学研究科博士課程に在籍されていました。これで生産環境化学講座の5つの教育研究分野（昔の研究室）すべてに教官が2名ずつ配置されたこととなります。また、講座10名の教官のうちの2名が女性になり、生物資源環境学科の他の講座にまったく女性教官がいないのに比較するとかなり特徴的な教官構成になりました。本講座に学ぶ学生（1学年30名）の半分以上が女子学生であることを考えるとこれが世の流れというものでしょう。現在の教官構成は次の通りです。土壌学分野、本名俊正教授、山本定博助教授；植物栄養学分野、真鍋 久教授、山田 智助手；生物環境化学分野、藤山英保教授、岡真理子助手；応用環境微生物学分野、中島廣光教授、作野えみ助手；生物有機化学分野、木村靖夫教授、河野 強助教授。

（講座主任 中島廣光）

森林科学

森林科学講座（旧林学科）の同窓会員各位には各方面にわたってご活躍のこととお慶び申し上げます。当講座における最近の動きをご報告させていただきます。

平成15年4月には古川郁夫教授（環境樹木学分野）が連合農学研究科（鳥取、島根、山口大学連合の博士課程）の研究科長に就任されました。3大学間を精力的に回られるなどご活躍になっており、非常にご多忙です。また、黒川泰亨教授（森林計画学分野）は附属演習林長に就任されました。法人化をひかえて取組中課題の多い演習林の運営にご尽力いただき、ご手腕を発揮されることが期待されます。八木俊彦教授（林政学分野）は講座主任となられ、講座の運営に奮闘されています。川田俊成助教授（林産科学分野）は1年間のオーストリアでの研究を終えて帰られ、教育・研究に張切っておられます。緑地防災学分野では本田尚正講師が大阪工業高専から着任され、奥村武信教授との2人体制になりました。一方、造林学分野では本間環助手の辞職によって山本福寿教授1人となられ、ますます多忙ですが相変わらず国内外でご活躍です。また、環境評価学分野を担当されていた川村誠助教授は4月1日付で京都大学農学部助教授に転出されて、この分野の担当教官が不在となりました。

昨年3月に退官されたばかりの宮田和夫先生は9月6日にご逝去になりました。長年にわたって林業工学、森林利用システム学の教育研究を担当された先生のご冥福を心よりお祈り致します。

このようにとても動きの激しい森林科学講座の1年でしたが、その他の先生方もそれぞれご活躍です。専攻学生諸君も森林科学の勉学・研究に熱心に取り組んでいます。

（作野友康・F昭37年卒）

生存環境学

同窓生の皆様には、益々お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。講座の近況を報告いたします。この1年間講座の教官には大きな動きがありました。まず、悲しい報告からしなければなりません。渡

辺正平先生は昨年2月頃から体調を崩されて、病氣治療に努めておられましたが、昨年12月20日に急性骨髄性白血病のためご逝去されました。享年62歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

このほかの教官の異動は、今年5月に緒方英彦先生が基盤造構学分野の助教授に昇任されました。また、生物生産機械学分野の竹田洋志先生は今年度新設された留学生センターの講師に昇任・転任されました。

この結果、本講座は8月現在で、環境計画学(吉田、原田)、地圏環境保全学(田熊、猪迫)、水利用学(北村、長谷川)、基盤造構学(服部、緒方)、生物生産機械学(岩崎)、生物生産システム工学(唐橋、三竿)の6分野11教官で構成されています。なお、当講座の関連研究室として、乾燥地研究センターの自然環境学(神近、木村)、水資源学(矢野、安田)、土地保全学(山本、井上)の3分野があります。

大学改革の激動の時期に農学部長を2期4年勤められた岩崎先生は、今年3月末で任期を全うされて研究教育分野に完全復帰されました。服部先生は、昨年に引き続き学科長として、国立大学法人化を来年に控え多忙な毎日を過ごしておられます。今年度の講座主任は唐橋先生で、忙しい1年となりそうです。その他の先生方に異動はなく、それぞれに国内外で忙しく活動されています。また、当講座はJABEE(日本技術者教育認定制度)に積極的に取り組んでおり、田熊先生を中心に具体的な検討が進められています。

次に嬉しい報告です。服部九二雄先生は、7月31日、国際協力事業団(JICA)から、「国際協力功労賞」を受賞されました。この賞は、永年の国際協力の功績に対して贈られる賞であり、農学部と乾燥地研究センターが平成11年度より実施しているJICA集団研修「乾燥地水資源の開発と環境評価」のコースリーダーとしての業績が高く評価されたことによるものです。

さて、学生の方は、新2年生30名が当講座に所属され賑やかになりました。3年生(25名)は、必修科目であるインターンシップ(夏期実習)履修のため、全国各地へ出かけており、4年生(25名)は卒

論、就職活動、進学準備に、それぞれに貴重な夏を経験しています。同窓の皆様には、当分野の学生が、就職や夏期実習等で、お世話になる機会もあると存じますが、温かいご支援を何とぞよろしく願い申し上げます。

(北村義信・E昭46年卒)

農業経営情報科学

農業経営情報科学講座では、今年に入ってから多くの人事異動がありました。順を追ってご紹介します。

まず、今年1月から、農業経営学分野の小林一先生が鳥取大学の副学長および附属図書館館長に就任(併任)され、大変忙しい毎日を送っておられます。

つぎに、食料政策学分野助手の松田敏信先生が、3月に地域産業計画学分野の助教授に昇任されました。

一方、農業情報管理学分野教授の藤井嘉儀先生が、本年3月をもって、停年でご退官されました。藤井先生は鳥取大学農学部総合農学科を昭和35年にご卒業後、高校教員等を経て、昭和37年に鳥取大学農学部に戻られ、以後、助手、講師、助教授等を歴任後、昭和62年からは教授として農学部での教育研究に従事してこられました。近年は、本講座の教育研究だけでなく、農業技術サブコースの立ち上げや学生指導にも熱心にあたってこられました。なお、先生の退官に際しましては、最終講義や醸金、記念祝賀会等の事業で同窓の皆様方からも多大なご支援、ご協力を賜りました。本当に有難うございます。

さらに、食料政策学分野助教授の飯山昌弘先生も本年3月をもって鳥取大学を後にされ、4月より静岡英和学院大学の人間社会学部に転任されました。

また、4月にアグリビジネス経済学分野助教授の古塚秀夫先生が食料政策学分野の教授に、農業情報管理学分野助教授の伊東正一先生が同分野の教授に、そして農産物流通学分野助手の万里先生が同分野の助教授にそれぞれ昇任されました。さらに、飯山先生の後任として、同じく4月より大津亨先生が食料政策学分野の助教授として赴任されました。

現在の教育研究分野ごとの教官構成は、つぎの通りです。

(教育研究分野)	(教授)	(助教授)
地域産業計画学	能美 誠	松田敏信
食料政策学	古塚秀夫	大津 亨
アグリビジネス経済学	中山精一	
農業経営学	小林 一	松村一善
〃	佐藤俊夫	
農業情報管理学	伊東正一	
農産物流通学	笠原浩三	万 里

それから、農業経営学分野の松村一善先生は、文部科学省の在外研究員として、今年の6月下旬から来年4月中旬まで、アメリカ合衆国（カリフォルニア州立大学デービス校）にご出張です。

なお、最後となりましたが、同窓会会員の皆様方の今後のご健勝とご活躍を心より祈念致します。

(能美誠・B昭55年卒)

獣医学科

獣医学科では農学部他の学科（生物資源環境学科）と異なり、6年間教育がなされていることは皆様ご存じの通りです。従って昨年までは従来と同じ小講座制でしたが、本年4月より大講座制に改変いたしました。

新しい教育組織は3つの大講座の中に従来の講座が研究分野として配置されたもので、実質的な教官及び学生の分属は従来と変わりありません。

学科	講 座	教育研究分野
獣医	基礎獣医学 病態・予防 臨床獣医学 応用獣医学	解剖、生理、薬理 病理、微生物、公衆衛生 内科、外科 畜産、実験動物機能
施設	動物病院	

次に教官の移動ですが、永年にわたり家畜内科学及び家畜病院で研究教育にご尽力頂いた林 隆敏教授（獣医学科同窓会長）が本年3月31日付けで停年退官されました。後任には外科学の岡本芳晴助教授が家畜病院教授として就任しました。また、外科学の宮武克行助手が3月31日付けで退職され、8月に家畜内科学に辻野久美子助手が着任しました。

獣医学教育の内容は社会情勢の変化に伴って日々変化しております。今日では、畜産業の衰退もあっ

て、これに携わる産業獣医師を目指す学生は極めて少なく、多くは愛玩動物の診療を望んでおります。

従ってこの要望に応えるためには教育内容の充実、特に臨床教育の充実を図る必要があります。しかし、現在の教官数では限度があり、各科目の専門教官の増員が急務となっております。このような現状を打開する方策を大学、学部、学科レベルで種々検討がなされておりますが、大学の独立法人化・行政改革が叫ばれている今日ではなかなか妙案がない状態です。学生の就職状況ですが、前記の様に動物病院開業希望者が多く、県、市町村その他公共団体への就職希望者が少ない現状です。これらの方々には誠に迷惑をおかけしておりますが、ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

(七條喜一郎・V昭40年卒)

農 場

卒業生の皆様にはお変わりなくご健勝のことと拝察いたします。皆様に附属農場の近況をお伝えしたいと思います。

現在、附属農場では中田農場長（A昭49年卒）と田村（A昭57年卒）の教官2名、事務職員2名、そして船越技官長他、技官10名のスタッフで運営を行っています。以前と比べ技官の人員が減った一方、若い技官スタッフが増え前にもまして活気づいています。さらに、農場の施設等も、より良い実習教育環境を整備すべく、梨、大粒系ブドウ、トマト、メロンなどの野菜の大型施設栽培・水耕栽培を進めており、先進的な農場へと生まれ変わりつつあります。近年では県内外からの生産者の視察も多くなり、また公開講座など社会教育の場としても活用されるようになりました。学部の教育面でも1年生へは基礎的な内容の実習を行い、3年生には県内の梨選果場での実習などより高度な内容をと新しい方向を模索しているところです。

さて、農場の専攻生ですが、海外からの留学生を含め約20名の大所帯となっております。ちなみに学部同様半数以上が女性です。近年では作物栽培技術はもとより、育種や果樹・野菜など幅広いテーマの研究に取り組んでいます。卒業後の進路もそれなりにということなのです。

農学部の教育・研究がさまざまな方向へ細分化してゆく中、スタッフ一同農学教育の基本となる実習教育と、研究の農業現場への還元を行う場として、より附属農場を発展させるべく努力してまいります。卒業生の皆様のご支援をお願いする次第です。

(田村文男 A昭57年卒)

演習林

鳥取大学には蒜山・溝口・三朝・湖山の4つの演習林があります。蒜山演習林(広葉樹開発実験室を含む)にはコナラ・ミズナラ・ブナなどの落葉性広葉樹の優先する天然林が多く、2003年5月には高さ20mの森林観測用ジャングルジムも完成し、広葉樹研究の絶好のフィールドとなっています。溝口演習林には全国的にも貴重な赤松天然林があり、三朝演習林は太平洋と日本海の両方の植生要素を有します。湖山演習林は砂丘に植栽されたクロマツやニセアカシアが主体でしたが、鳥によって種子が運ばれた広葉樹類が更新してきています。それぞれの演習林の特色を活かした教育・研究が求められています。

現在のスタッフは、林長が黒川泰亨(森林計画学教授)、主事が佐野淳之(森林生態系管理学助教授)、技官が松原研一(技術主任)と東尾弘美(技術官)、技能補佐員が大塚勝躬と小谷好正、非常勤職員が長恒真司、事務部が谷田真人(専門職員)、田中素直(業務係長)、藤田和正(業務主任)、上根恵子(事務補佐員)です。

演習林では、従来からの実習教育に加え、大学生のインターンシップ&ボランティア(蒜山・湖山)、



蒜山演習林のコナラ林に設置された高さ20mの森林観測用ジャングルジム



湖山演習林で園芸学研究室から提供されたマンシュウマメナシを植える学生たち

中学生の職場体験学習(湖山)や林業体験研修(蒜山)の受け入れ、地域の子どもたちを対象とした森林教室(溝口・蒜山)を実施しています。これらの活動を通して、広葉樹林を中心としたフィールド科学の教育・研究に貢献していきたいと考えています。

演習林ホームページ：<http://muses.muses.tottori-u.ac.jp/dept/Forest/univfor-j.html>

(演習林主事・佐野淳之)

動物病院

病院の獣医師は現在5名(フルスタッフで7名)で内科担当が3名(日笠教授、佐藤講師、辻助手(平成15年8月1日より))、外科担当が2名(南教授、岡本教授)と学外臨床教授獣医師3名(前田教授、遠藤教授(産業動物)、福本教授(エキゾチックアニマル))です。

動物病院が特に充実した診療内容を字数の関係で項目だけ紹介します。

内科

1. 循環器疾患に対する診断とそれに関連する精神神経学的異常の診断と治療
2. 代謝性疾患にたいする診断と治療
3. アトピー性皮膚炎にたいする診断と治療

外科

1. 腹腔鏡外科手術
2. 整形外科：特に創外固定術
3. 神経外科：CT 3次元撮影による診断と治療。
4. 腫瘍外科：PDTによる治療法を開発してい

ます。

5. 眼科：白内障手術
6. 産業動物診療科：臨床教授との連携プレー
7. エキゾチックアニマル診療科：臨床教授との連携プレー

以上のように動物病院は地域に根ざした診療活動を通じて、学生教育を実践し、新しい診療技術を世界に発信しています。

電話 / FAX : 0857-31-5441

内科 e-mail:hikasa@muses.tottori-u.ac.jp

外科 e-mail:minami@muses.tottori-u.ac.jp

病院 e-mail:yokamoto@muses.tottori-u.ac.jp

(南 三郎 V昭45年卒)

乾燥地研究センター

この夏は天候不順でしたが同窓会の皆様にはいかがお過ごしでしたでしょうか。乾燥地研究センターから同窓会報への寄稿は初めてになると思います。

全国共同利用施設の当センターは、学内組織上は農学部と独立した部局の扱いですが、前身の砂丘利用研究施設は農学部の附属施設であり、現在も農学部とは密接な連携が保たれています。

戦後、農学部の先輩教官により始められた浜坂の砂丘利用実験地が、昭和33年文部省令により砂丘利用研究施設となり、幾度かの組織拡充、砂漠化防止を施設研究規程に追加するなどの節目を経て、平成2年乾燥地研究センターに改組されました。昭和48年から農学部の委嘱による卒論指導が行われるようになりましたが、その以前にも砂丘で実験・研究に専念された卒業生の方もたくさんおいでのことと思います。

現在、乾燥地研究センターの乾地環境部門（自然環境分野、水資源分野）、生物生産部門（生理生態分野、植物生産分野）、緑化保全部門（緑化・草地分野、土地保全分野）の6研究室には、農学部の生物生産学、森林科学、生存環境学の各講座ならびに砂地乾地コースの学生が分属し卒論に取り組んでいます。

時代とともに、研究所の様子もずいぶん変わりました。どうぞ鳥取へお越しの折にはお立ち寄りいただき、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

(乾地環境部門・神近牧男)

支部だより

関東同窓会

為 季 繁 (A昭38年卒)



関東同窓会は、13年11月現在で取りまとめた名簿によれば、会員数953名を擁する東京を中心に関東8都県カバーする地域に住所又は職場のある方々の同窓会です。学科毎の同窓会も盛んですので、同窓会連合会的な機能も果たしています。

年に1度総会を開催し、これを各学科を代表する副会長の方々が、一致協力してもり立てて頂いております。おかげさまで、毎年、40名前後の会員のご出席を頂き、1年間の会計などの運営報告の後、久しぶりに会員同士旧交を温め、時間の過ぎるのを忘れるような楽しい会合になっております。

悩みもあります。広域のため、総会出席者が都内近県に限られる傾向があり、また、若い会員の方には転勤や転居で連絡が十分取れないこと等です。しかし、遠く群馬県からご参加頂いたり、若い方同士、グループで参加されたりするのを見ますと幹事側としては、多少の苦勞も忘れてしまいます。

14年度の総会は、昨年10月26日（土）の11時半、あいにくの雨の中、東京の法曹会館に会員33名が集まり、同窓会本部から常任幹事の田村文男先生（農学部附属農場教授：A昭57年卒）をお迎えし盛大に開催されました。総会では会計報告、会則改正のほか、役員改選では、会長、副会長は再任され、幹事には、佐藤紳（A平2年卒）、三重野信（N f 平4年卒）及び山口利也（N c 平5年卒）の諸氏が選任されました。田村先生からは、母校の独立行政法人化問題など有意義なお話を頂戴しました。懇親会は、

立食パーティーで植田昌明氏 (E昭33年卒) の乾杯の音頭で始まり、幾つかの歓談の輪が続きました。最後の中尾昭義氏 (B昭28年卒) の中締まで、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

なお、15年度の総会は16年1月17日 (土) に予定しております。

静岡県支部

長谷川 剛 司 (F昭58年卒)



毎年静岡支部の同窓会は、1月の第3週の日曜日と決まっている。本年度は林隆敏教授 (V昭35年卒) をお迎えし、22名が参加して行われた。

幹事の私が正午過ぎに会場に着くと、一番乗りの佐伯農太さん (F昭36年卒) が待っておられた。定刻である午後1時に記念の写真撮影を行い、松南徹会長 (E昭33年卒) のあいさつ、事業及び決算報告と続き、林教授の大学、学部及び同窓会の明快な情勢報告が始まったのは1時15分であった。

森脇久平さん (E昭26年卒) の乾杯の音頭で、懇親会、つまり宴会が1時30分に始まり、始めに少し腹ごしらえをし、午後2時10分から、永山孝三さん (C昭50年卒) を皮切りに恒例の近況報告が始った。出席者も年々高齢化しているためか健康に関する話が多かったように記憶している。終了したのが3時20分であり、ちょうど一人3分間のスピーチであった。その後は席を自由に移動して、あちこちで輪ができた。

午後4時、ビール35本、差入れを含めた日本酒62本、焼酎1升を空けたところで、そろそろ疲れが見え始めてきたので、来年の幹事科を農学科に満場一致で決定し、山本久彰さん (A昭40年卒) のあいさ

つその後、山本正剛さん (F昭30年卒) の音頭で貝殻節を歌い始めたのは4時5分であった。更に林先生の発声でもう一度歌い直したのが4時10分と、なんと2回も歌ってしまった。最後は櫻井美雪さん (V平2年卒) の中締めで、来年の再開を誓い合って4時15分に無事解散となった。

大阪支部

幹事 西田 喜彦 (B昭45年卒)

平成14年10月25日 梅田のKBSサロンで第4回の支部総会を [同窓の集い] として開催した。今回は今までとは異なった趣向で、事務局の中西史三氏の知人で来賓作野友康先生の教え子でもある同窓の田村正一氏が『自然と共生する』というテーマで講演を行いました。今後も同窓の中から講師を選びお願いする予定です。本年も参加者が少なく、総会で本日の参会者全員を評議員にお願いし30名でもって支部運営にあたることになりました。

高農、大学 [吉方] [湖山] が各3割、大学の校歌も記憶をたどりながら歌い、歌いきった時にはホッとしました。

本部からの同窓会報を手にした時、大半の人が気になることは何でしょうか？今回は参加者を載せまですので次回の参考にしてください。

A [昭和22年卒 岩澤隼馬、昭和25年卒 今安達也、昭和45年卒 金谷直之、昭和47年卒 豊島邦光]

B [昭和36年卒 椿 泰夫、昭和38年卒 小幡 誠、昭和44年卒 橋本 堯、昭和45年卒 西田喜彦、昭和60年卒 井上文夫、平成6年卒 西谷一夫、]

C [昭和16年卒 金丸潤一、昭和18年卒 山根嘉人、昭和18年卒 和田順一、昭和45年卒 細田賢一、昭和46年卒 長澤宏師、昭和49年卒 中西史三、昭和49年卒 佐藤元則]

E [昭和34年卒 加藤順正、昭和37年卒 岡田哲夫、昭和37年卒 杉目 惇、昭和38年卒 森池崇夫、昭和45年卒 野村太持]

F [昭和18年卒 根来 勇、昭和19年卒 大音敬一、昭和19年卒 土井 操、平成元年卒 田村正一、平成元年卒 田上深志]

V [昭和35年卒 永野安彦、昭和44年卒 渡邊源治] の31名 (敬称略) でした。

V科の同窓会と重なり事務局として申し訳なかったと反省しています。

大学も独立法人になり、実績が問われることになりませんが建学精神の『実学』としての農学を再認識することが必要ではないでしょうか。一部が保持された高農校舎が単に歴史的な建築物という位置付けではなく90年前の実学発祥のシンボルとして大切にされん事を祈ります。

岡山県支部

幹事 佐野 誉（A昭44年卒）



14年度岡山県支部総会 平成14年8月10日(土)開催
岡山駅西口「岡山国際交流センター」出席者66名

岡山県支部会員数は、現在約580名を擁する大支部であります。約10年前から、名簿の整理を手掛け、その名簿により第1回総会の開催以来2年毎に総会を開催し、今回が第5回になりました。幹事は、大部分が県庁職員やOBが務めており、県内在住の同窓諸氏で連絡が出来ていない方、転勤などで岡山県に来られた方は、連絡をしていただければと思います。

総会では、会員物故者への黙祷の後、奥田宏健（V昭44年卒）会長の開会挨拶の後、本部同窓会から生物資源環境学科森林科学講座作野友康教授（F昭37年卒）の御挨拶と母校の独立行政法人化の動向などの御報告を頂きました。また、岡山県議会議員井元乾一郎（B昭44年卒、平成11年当選）さんの改選激励（見事再選）、2年間の支部活動報告をそこに済ませ、出席者最高齢の恩藤芳典（V昭17年卒）先生の乾杯の音頭で懇親会に移りました。懇親会では各科別出席者の自己紹介と近況報告があり、宴たけなわには「高農校歌」「啓成寮寮歌」「鳥大校歌」を大合唱し、名残惜しい2時間を過ごしました。

出席者の顔ぶれが、高齢者、壮年者に固定化し、若い方々の参加が今ひとつで残念、次回は更に工夫をと考えております。

香川県支部

事務局 田川 恵 富（V昭59年卒）



香川県支部には、現在、農学科14、農芸化学科14、獣医学科29、農業工学科9、農業経営科4、林学科9、農林総合学科10、計89名（平成14年度事務局把握分）の会員が所属しています。支部活動としては、多感な青春時代を鳥取で過ごした者同士の心のつながりを大切にした、2年に一回開催される支部総会、懇親会を主たるものとしています。

その支部総会、懇親会が平成14年8月25日に本学より林隆敏先生（V昭35年卒）をお迎えして、会員20名の参加のもと高松市は栗林公園に隣接する讃岐会館にて開催されました。

総会では織田支部長（F昭25年卒）の挨拶で幕を開き、林先生より最近の母校の動向、同窓会の状況等について盛り沢山のお話をいただき、会に花を添えていただきました。

引き続き議事に入り、役員改選が行われ、支部長が織田武則氏より小川平男氏（E昭30年卒）にバトンタッチされ、新体制が決定しました。今後は、人と人との出会いの場、人の輪を創造する場として香川県支部総会、懇親会を位置づけ、新会員の発掘に努め、会を活性化していかなければならなく、そのためには何をすればいいのか、新執行部に対する課題が決議されました。

懇親会の席では、会員同士の近況報告、鳥取時代の思い出話等に花が咲き、時間がたつのも忘れて楽しい一時を過ごしました。

最後に、香川県支部、母校の今後ますますの発展を祈念しつつ、盛会のうちに懇親会を閉じました。

熊 本 県 支 部

事務局 池 田 剛 志 (C昭42年卒)



平成15年、恒例の支部総会は、大学本部から常任幹事 七條喜一郎先生(家畜生理学)のご来熊を得て6月28日(土)熊本市「K K Rホテル熊本」にて午後3時から開催されました。

開会にあたり、田口支部長(E昭34年卒)より、同窓会員が全国各方面で活躍されており、会員として交流が持てることは頼もしい限りである、今後とも会員交流・動向情報に可能なかぎり熊本支部として努力していくについて会員の意見・協力をお願いされました。

つづいて、大学本部の七條先生(V昭40年卒)から母校、農学部の最新の動向や、学科の概況、大学組織の変化、社会環境などからの大学・農学部への要望、大学生の現状、国際的な大学間研究交流や海外からの留学生交流など活発な活動・期待・変化の状況を会員一同熱き思いで聴かせていただきました。また、思い出懐かしき旧農学部校舎・貴重な施設への保存活動、本部同窓会活動と支援と会員の御協力への御礼など……、七條先生の特長ある解説を加えて伝えていただきました。

熊本支部では、従来毎年総会を6月の日曜日の正午から開催してきていましたが、出席会員の拡大、新卒会員・転入会員などへの配慮、参集しやすい時期・会場など生活環境の変化なども考慮し、本部から来熊スケジュールなど支部役員で検討を加え、今回土曜日の午後3時からの開催としてみました。

今回は女性会員 園山 絹(N平12年卒)の出席など若い方々も加わり、21名の会員が集いました。

総会では、その後、藤本完二(B昭51年卒)役員から会計報告および会員名簿について説明があり、

岡本隆夫(C昭20年卒)監事から会計監査報告がなされました。

今回、欠席会員の祝電・メッセージ・伝言も池田剛志(C昭42年卒)役員から出席会員に、それぞれ伝えられ、回覧されています。

総会後の懇親会は、衆議院議員として活躍の松岡利勝(F昭44年卒)代議士も駆けつけ挨拶などあり、全員で記念写真を撮りました。その際、森 幹夫(A昭19年卒)元支部長が持参の全国寮歌祭参加の時に着用のハッピーも記念に着用しました。

会員同志の近況活動や、地域活動・情報交換など先輩後輩共に膝を突きあわせて、好みの杯を交わしつつ、和気あいあいと楽しき意義深き時を持たれ、鳥取高等農業学校校歌「大海原の水うけて」を先輩会員のリードで全員の大合唱をおこない、意気高く盛会でありました。

なお、二次会は池田元吉(F昭55年卒)会員のお世話で会場をセットし、ほとんどの出席会員が参集し、楽しき時を引き続き持つことが出来ました。

九州・熊本の地は鳥取から遠路で会員数(約60名余)は少ない支部ではありますが、一人一人の同窓会員各位が各方面で活躍、尽力されています。

全国の同窓・諸兄のご健勝をお祈りします。

島 根 風 紋 会

本部常任幹事 能 美 誠 (B昭55年卒)

平成14年10月27日(日)に、島根県太田市のプラザホテル三瓶で第35回風紋会総会が開催されました。支部会員48名のうち11名が参加し、本部からは能美誠(B55年卒)が出席して、午前11時より総会が始まりました。会長挨拶に続いて、能美が鳥取大学農学部の近況報告を行った後、議事に入り、会務報告、会計報告・監査報告、役員改選(若槻会長、景山代表幹事も再任)が行われ、次回総会を平成15年10月25日(土)に出雲市で開催することを決めて、懇親会へと移りました。

合計12名という比較的少人数の集まりではありましたが、懇親会では学生時代や近況の話で盛り上がり、午後3時頃まで楽しく和やかな時を過ごしました。

クラス会だより

幹事 小原 隆三（A昭28年卒）

近ごろ、クラス会は数年ごとに開いていましたが、このたび卒業後50年を迎えることを期に企画しました。

と き：平成14年11月26日

と ころ：ウェルシティ鳥取

私たち農学科は一部（農学科）、二部（総合農学科）、土木専修（農業工学科）から成っていました。50年ぶりに会った人、え！誰だったきえという場面も見られましたが話せばすぐ了解、体調を崩したり、家庭の事情などで16名の出席になりました。

まず物故者に黙祷を捧げたのち、代表の富田迪男氏の挨拶から始まり、お互いに再会を喜びあいながら懇談し、思い出話に花を咲かせた。共通の話題はなんと言っても鳥取大火（昭和27年）のことで話もつきないようでした。その後、一人ずつ卒業してから今日、これからについて大いに語ってもらいました。ようやくゆとりができ、自分史に取りかかりたい、悠々自適の生活、趣味を活かしたいなど各人夢を持っているようでした。お互い健康に留意し再会を約して閉会した。



事務局だより

冷たい8月が終わり、やっと9月になって夏らしくなった鳥取です。皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年は“おい、あばさん!!”と大変失礼な事を平気でおっしゃる林隆敏先生（V昭35年卒）が退官され農学部も静かに？なりました。

会報の季節になると思い出します。“わしゃあ払つとるで”“同窓会なんか退会しています”必ず押し寄せるクレーム攻撃に百戦錬磨の私もタジタジ。みかねた林先生“ちーとかしてみいや!!”と電話を取って下さり、あの大きな体を何度も折り曲げて下さいました。心を叩き続けていた雑音がサーッと遠のき、本当に有り難く思ったものです。支部総会にも何度かご一緒させていただき、全国各地で“出逢い”をいただきました。本当に辛口でしたが、相手の立場に立って考えて下さる先生でした。これからも思いわずらうことなく愉しくを目標にご活躍される事をお祈り申し上げます。

相変わらず、コンピューターエラーが出ると若い？先生の携帯を鳴らし続け、迷惑がられながらの作業でしたが、今年も皆様方のお手元に会報をお届けする事が出来ました。これからも何かに打ち当たっても、足りない事があっても自分らしい呼吸の仕方であせらず、オバサンらしく？頑張りたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

一人でも多くの会員の方に会報をお届けしたいと思っております。勤務先、現住所等変更がございましたら、是非ご一報下さい。

なお、会費の納入もあわせてよろしくお願いいたします。

〒680-8553 鳥取市湖山町南4丁目101

TEL・FAX (0857) 28-9262

Eメールアドレス

dousou@phanes.muses.tottori-u.ac.jp

事務局 北嶋

国立大学法人化について

学内副会長 作野友康 (F昭37年卒)

かねてから国立大学の法人化について検討されてきましたが、いよいよ平成16年度から全国すべての国立大学が一斉に「国立大学法人」とすることが決定されました。これにともないまして各大学では法人化への移行準備が急速に進められています。文部科学省で決められた規則・範囲内で各大学が独立した法人としての体制作りをしなければなりませんので、鳥取大学においてもその準備で大変です。しかし、学部での対応など詳細については今後検討されることがほとんどです。そこで、同窓各位には新聞報道等ですでに概要はご存知の方も多いかと思いますが、現時点(平成15年8月現在)でわれわれがわかる範囲で、これまでの国立大学と違ってくるところを若干の私見を含めてご紹介いたします。

まず、これまで国立大学として種々の面で各大学一律の形態をとってきましたが、法人化後は大学毎に独自の大学づくりをして、それぞれの特長を出していかなければならないことです。また、その成果は一定期間毎に種々の面で評価され、その結果が予算面などに反映されて大学の拡大、縮小あるいは再編統合などにつながると考えられています。したがって、概算要求によって認められなければ改変ができなかったこれまでの制約は大幅に緩和されるそうです。

次に非常に大きな変革はこれまで国家公務員であった教職員がすべて各大学法人の教職員として採用されることになり、国家公務員でなくなるということです。したがって、人事、予算などほとんどが

学長権限にゆだねられる、いわゆるトップダウン方式になることです。そして、教職員ともに教育、研究、管理運営、社会貢献のそれぞれの面から評価されて、その結果が給与等に反映されるとのことです。

一方、大学の管理運営は学長を頂点として、役員会、経営協議会といったところで方針が決められて、それに従って行われる予定です。また、これらのスタッフには学外の人材を一定数含まなければならぬことになっています。

予算については大部分はこれまで通り文部科学省から大学に配分されますが、その予算を学内どのように使うかは前述の管理運営をつかさどるところにまかされます。また、学生の入学料、授業料等、教職員の給与等も各大学独自で決められます。ただし、これらについては文部科学省で一変の枠が設けられ、特に学生定員については認可が必要だということです。また教員の研究費等についてはこれまでのように一律配分されることはなく、各人の要求によって、学内外から確保しなければならないということです。

以上、述べてきましたことはまだほとんど未確定のことばかりですので、これから詳細が決められる予定です。いずれにしましても大幅に変革されることは間違いありません。そして、研究費等外部資金の導入が必要不可欠となってきますので、同窓会員の皆様方から一層のご協力とご援助を賜らねばなりません。何卒よろしくお願い申し上げます。

終身会費導入!!

終身会費ご希望の方は、振込用紙に必ず卒業学科、卒業年度をご記入下さい。

現会員：大正13～15年卒業 無料

昭和2～26年卒業 1万円(年会費4年分)

昭和28～40年卒業 2万円(年会費8年分)

昭和41～50年卒業 3万円(年会費12年分)

昭和51年以降卒業 4万円(年会費16年分)

鳥取大学農学部 教育研究組織一覽

農学部

学科 (1年次)	教育コース (2、3年次)	教育研究分野 (3、4年次)
生物資源環境学科 200名	食料経済学	農業経営学 地域産業計画学 食料政策学 アグリビジネス経済学 農業情報管理学 農産物流通学
	生物生産学	作物生産学 植物遺伝育種学 園芸学 植物病理学
	応用生命科学	昆虫機能学 機能生化学 微生物工学 植物機能学 生物化学
	生産環境化学	土壌学 植物栄養学 生物環境化学 応用環境微生物学 生物有機化学
	生存環境学	環境計画学 地圏環境保全学 水利用学 基盤造構学 生物生産システム工学 生物生産機械学
	森林科学	造林学 森林計画学 林政学 林産科学 森林利用システム学 緑地防災学 環境樹木学 環境評価学 地域論地理学

大学院農学研究科（修士課程2年）

大学院連合農学研究科（博士課程3年）

1～3年次	4～6年次	
獣医学科 35名	家畜解剖学 家畜生理学 家畜薬理学	基礎獣医学領域
	家畜病理学 家畜微生物学 獣医公衆衛生学	病態・予防獣医学領域
	家畜内科学 家畜外科学	臨床獣医学領域
	畜産学 実験動物機能学	応用獣医学領域

大学院連合獣医学研究科
(博士課程4年)

附属施設	
附属農場	栽培技術、園芸生産学
附属演習林	森林生態系管理学
附属動物病院	

乾燥地研究センター（全国共同利用施設）